

いけうち

冬場の乾燥、静電気はもう怖くない 湿度管理で品質と生産性が向上

霧のいけうち (株) いけうち

目を集めている。

静電気やインキの乾燥、用紙の伸縮といった印刷業界共通の課題を解決し、最適な生産環境を維持するための各種加湿システムを提案している。中でも、特に湿度低下の影響の強い箇所を重点的に加湿する「ドライフォグ加湿システム」と、高い省エネ性能を誇る「ハイプレッシャー加湿」が注

7.5μmの非常に微細な霧(ドライフォグ)が、機械や製品、作業者を濡らすことなく静電気の発生を抑制。用紙の寸法安定性を保つことで、印刷品質を飛躍的に向上させる。

また一方、ハイプレッシャー加湿システム「Air

ULM(エアールム)は、平均粒子径10〜30μmの霧(セミドライフォグ)を噴霧する大空間の湿度調整に特化したシステムだ。稼働時にコンプレッサエアーを使わず、高圧ポンプのみで微粒化を行うため、一般的な蒸気式加湿システムと比較して約80%もの大幅なランニングコスト削減が可能となる。また、加湿量を多く取った設計ができるため、換気量の多い空間や天井の高い建屋でも効果的に加湿できる特長を持つ。

国の補助金活用で設備投資を賢く

なお、これらのシステムは経済産業省の「省エネルギー投資促進支援事業費補助金」の対象設備となっており、設備導入時に補助金の申請が可能だ。これにより、初期投資を抑えつつ、生産環境の大幅な改善とランニングコストの削減を同時に実現できる。

▽(株)いけうち TEL 0120-997-1084

目を集めている。

冬期は空調の使用により、印刷工場内は極度に乾燥し、静電気の発生による用紙の二枚取りや給紙不良、見当ズレなどが多発する。また、インキの粘度変化による品質のばらつきや、乾燥した用紙の断裁不良なども生産性を下げる大きな要因となる。同社の加湿システムは、濡れないほど微細な霧を使って加湿することで、これらの課題を根本から解決、また予防することで、年間を通して安定した品質と生産効率の向上に貢献する。

国内外の印刷工場に多くの実績を持つドライフォグ加湿システム「AirAKI (エアラキ)」は、工場全体を加湿するだけでなく、特に湿度が重要な狭小空間についてもピンポイントに加湿できるという優れた特徴を持つ。平均粒子径

※
蒸気加湿からの切り替えて、約80%
CO₂排出量を削減できる

- ✓ 現場を濡らさない最適湿度で静電気対策
- ✓ CO₂削減量のシミュレーションをご提案

※弊社シミュレーション結果より

☎0120-997-084 [営業時間] 09:00-17:00 (平日)



AirAKI

ドライフォグ加湿システム | AirAKI®



フォグエンジニア
霧のいけうち

いけうち加湿

検索